

とっとり暮らし 2026

豊かな地域で暮らしませんか？



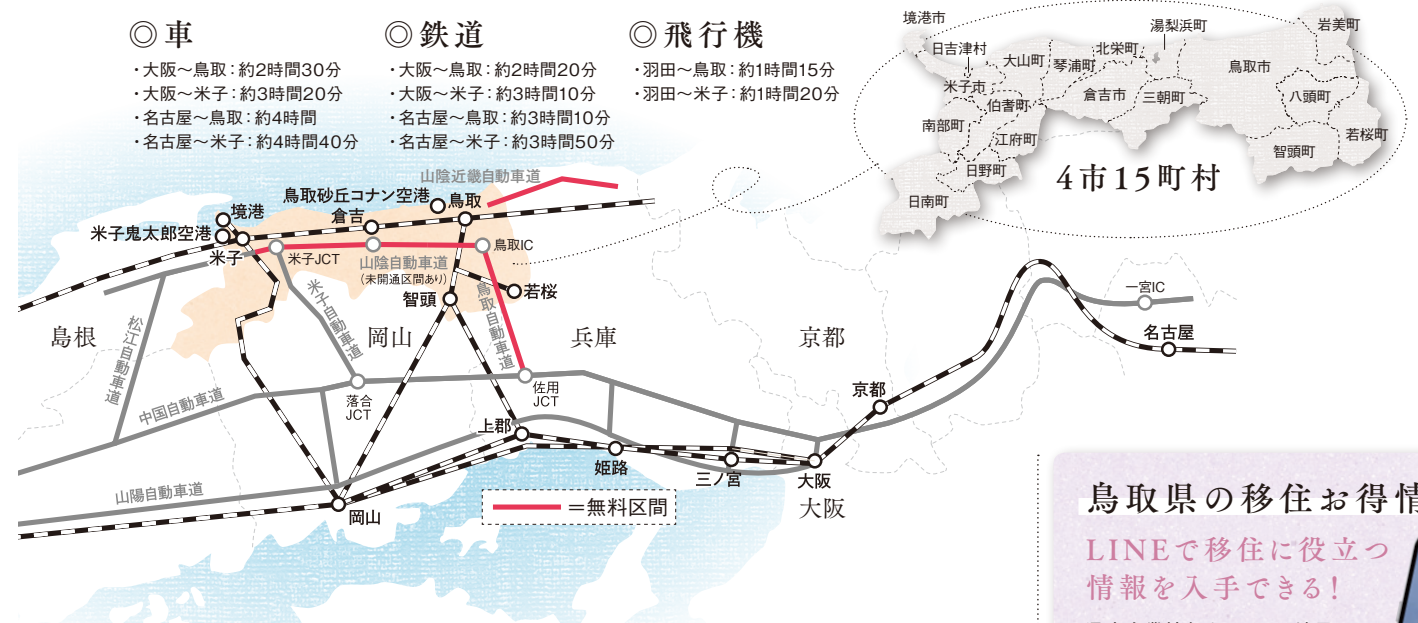
「田舎暮らしの本」特別編集 ©宝島社 2026



鳥取に来て、地域の人とコラボレーションしながら、一緒に楽しむ暮らし。鳥取県からの提案です。

鳥取県へのアクセス

- ◎車
 - ・大阪～鳥取：約2時間30分
 - ・大阪～米子：約3時間20分
 - ・名古屋～鳥取：約4時間
 - ・名古屋～米子：約4時間40分
- ◎鉄道
 - ・大阪～鳥取：約2時間20分
 - ・大阪～米子：約3時間10分
 - ・名古屋～鳥取：約3時間10分
 - ・名古屋～米子：約3時間50分
- ◎飛行機
 - ・羽田～鳥取：約1時間15分
 - ・羽田～米子：約1時間20分



鳥取県の移住情報はここから！

とっとり移住定住ポータルサイト「鳥取来楽暮」

リニューアル
生活環境やまちの魅力、支援情報など、ホームページを見れば鳥取がまるごとわかります。まずは、とっとり移住定住ポータルサイト「鳥取来楽暮(こらぼ)」へアクセス！



<https://furusato.tori-info.co.jp/iju/> とっとりこらぼ 検索

【とっとりdiaryインフルエンサー】特設サイト

鳥取県での暮らしの魅力をSNSで発信する「とっとりdiaryインフルエンサー」。個性豊かで楽しいメンバーが、それぞれの視点でリアルな鳥取暮らしをお伝えしています！



鳥取県の移住お得情報

LINEで移住に役立つ情報を入手できる！

県内企業情報をはじめ、地元のお店やイベント情報など、鳥取への移住に役立つ情報が満載(FULL)のポータルサービス「ととりふる」。アプリからLINEにリニューアルし、さらに使いやすくなりました。右の二次元コードから友だち追加を！



「とっとり移住応援メンバーズカード」

申込募集中！

お店でカードを提示すると、商品・サービスなどの優待を受けることができる「とっとり移住応援メンバーズカード」。ぜひ登録しよう。詳しくはこちら▶



鳥取県への移住相談窓口

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構

やさしいここは 移住のご相談は… ☎0120-841-558

※かけた地域によって鳥取・東京・大阪いずれかの窓口につながります
※ファイナンシャルプランナーが移住前後の生活費もシミュレーション！

鳥取相談窓口

(受付時間/平日8:30～17:15)
〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町115-1
鳥取駅前第一生命ビル1階
☎0857-50-0137
✉iju-tottori@furusato-tori.org

大阪相談窓口

(受付時間/平日8:30～17:15)
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-1-3-2200
大阪駅前第3ビル22階 鳥取県関西本部内
☎080-1932-8319
(上記番号の受付時間/水・金17:15～18:15
木17:15～19:45 土・日・祝9:30～18:15)

東京相談窓口

(受付時間/平日10:00～18:00)
〒105-0004 東京都港区新橋1-11-7
新橋センタープレイスビル2階
とっとり・おかやま新橋館内

☎080-1932-8309 夜間休日
(上記番号の受付時間/木18:00～20:30
土・日・祝10:00～18:00)

とっとり暮らしサポートセンター

(受付時間/10:00～18:00 ※月・木・祝を除く)
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階 ふるさと帰郷支援センター内

☎090-1657-7470 土日OK

発行/(公財)ふるさと鳥取県定住機構 〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町115-1 鳥取駅前第一生命ビル1階 ☎0857-50-0137 発行月/令和8年3月
※「田舎暮らしの本」(宝島社)の記事(令和7年8月号～令和8年3月号)を再構成し、作成したものです。内容などは取材時点のものです。



若桜鉄道の隼駅をバックに、愛車の「ハヤブサ」と山村さん。駅舎は、2008年に国の登録有形文化財に登録された。



道の駅「はつとり」は国道29号沿いにあり、地元の人はもちろん、多くのドライバーやライダーが立ち寄る。



若桜鉄道のよさを伝える有志の会「街村探旧所」の代表・木下裕史さんと。後ろを走るのが、周囲の自然と調和する若桜グリーンの車両「若桜号」。



自宅を改修した民泊「隼福二六四」。名前は住所にちなんで付けた。正面には田んぼと山が見えて、ロケーションも最高だ。

ここが好き 町内の風景



田畑の向こうに山々が見え、のどかな里山風景が広がる。「春には桜、夏には木々の緑や清流、秋には柿などの果実、冬には雪、四季折々に楽しめる町内の風景が好きです」と山村さん。



室内はバイクを入れることができ、まさに「泊まれるガレージハウス」。山村さんは、「愛車を眺めながらくつろげるって最高ですよ」と楽しそうに笑う。

とっとり暮らし

#02

八頭町

やずちょう

ライダーの聖地「隼駅」が縁で移住 道の駅で働きながら民泊も開業

やまむらた

八頭町を走る若桜鉄道に

「ハヤブサ」と同じ名前前の隼駅があり、バイク雑誌がきっかけで始まった「隼駅まつり」には毎年、2000台以上のバイクが全国から集まる。そんな隼駅が縁で、奈良県から2016年に八頭町へ移住したのが山村俊太さんだ。山村さんは、大阪の専門学校で観光業を学び、JR東海に就職。大型バイクの免許を取り、一目惚れして購入したのがスキのバイク「ハヤブサ」だ。鳥取にバイクと同じ名前の駅があることを知り、ツーリングに出かけた山村さん。翌夏の2009年から「隼駅まつり」が開催されるようになり、山村さんももちろん参加ボランティアで祭りを手伝う

中で地元の人と仲よくなり、月1回程度は八頭町を訪れるようになった。「地域の皆さんがとても親切。あと地域に面白いものがあるそうで、移住を決めました」

移住後はゲストハウスでの勤務を経て、道の駅「はつとり」に転職した。町内に「隼駅」や若桜鉄道があることから、バイク用品や若桜鉄道のグッズを販売するなど、駅長やスタッフと協力して八頭町ならではの店づくりに尽力している。「楽しそうなどころに人は集まりますから、町内の面白いものをとんとん発掘していきたい。何かを始めると、周囲の人が助けてくれるのが八頭

町のよさですね」と山村さん。八頭町でパートナーとも出会った山村さんは、2023年12月には隼駅から徒歩10分ほどのところに建つ築約50年の家を自宅兼宿として改修し、1日1組限定の宿「隼福二六四」をオープン。「泊まれるガレージハウス」をコンセプトに、1階にはバイクを入れられるリビングガレージをつくり、薪ストーブや簡単なキッチンを設置して、愛車を眺めながらくつろげる空間に。

写真撮影も趣味の山村さんは、若桜鉄道のよさを伝える有志の会「街村探旧所」の代表・木下裕史さんとともに、「八頭まちゼミ」で若桜鉄道

の魅力、写真撮影のテクニックやビュースポットを教える講座を行っている。「今後は、大人数が泊まれるような2軒目のゲストハウスを開きたいし、道の駅の品揃えも増やしたい。若桜鉄道の駅を活用したイベントも開催していきたいです」と笑う。



自然豊かな地元の食材にこだわり、台湾料理とワインの店「稲妻飯店」をオープンした山田大樹さん。

自宅近くには「平成の名水百選」にも選定されている布勢の清水があり、夏季にはバイク道を採りに行く。



「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」の小林清さん(写真左)は、開業前から物件の相談などお世話になっている。



とっとり暮らし

#01

鳥取市

とっとり

城下町で憧れの飲食店を開業 地元食材の魅力台湾料理に

やまだ

鳥取市出身の山田大樹さんが、台湾料理とワインの店「稲妻飯店」をオープンしたのは2024年4月のこと。高校卒業後、東京農業大学へ進学し、パクチー料理専門店でのアルバイトをきっかけに、飲食業界に興味を持った。さまざまな飲食関連の仕事で経験を積み、2023年にUターンした。「いつかは鳥取に帰って飲食店を営みたいと考えていま

店舗を構えたのは、鳥取市街地から車で20分ほどの城下町・鹿野町。大学時代に訪れたとき、歴史ある町並みが気に入った。開業に先立ち、空き家の利活用に知り組むNPO法人「いんしゅう鹿野まちづくり協議会(以下、協議会)」に相談したところ、築100年以上の元和菓子店兼住居の古民家を紹介された。「決め手は自分がここで働く姿が想像できたことです。立地や交通量、店の広さもちょうどいいと感じました」

家に思入れのある大家さんは他人に貸すつもりはなかったそうだが、協議会の小林清さんの仲介で、町並みと家を

大事にしたいという山田さんの思いが伝わり、貸してもらえることになった。地元の工務店にアドバイザーをもらいながら、既存の間取りを活かしつつ、天井の塗装などを自らすることでもコストを削減。カウンターの木材や食器の一部は地元の方から提供してもらった。こうした地域とのかかわりや家を大切にしている改修が評価され、鳥取県が主催する「空き家利活用コンテスト2024」の非住宅部門で最優秀賞を受賞した。

料理は地元の食材と旬の野菜、自身で採取した山菜にこだわっている。実家で両親とともにつくる米や野菜も取り入れ、自宅近くにある湧き水「布勢の清水」の清流で採ったバイクを白和えにしたり、山で採ったハチクダケを春巻きにしたり。ランチはしっかりと調理した鶏肉にたれをかけた口水鶏や唐揚げのセット、夜は単品メニューを提供。母の節子さんも手伝っている。「働いていた台湾料理店が、お酒は日本酒とワインを推していたため、台湾料理とワインのマリアージュは自然な発想でした。春は山菜やタケノコを採りに行くのが楽しみです。今後はメニューに地元の食材のことを書いて地域のよさを知ってもらいたい。地元の方にいっしょに利用していただける店にしていきたいです」



ランチメニューの「口水鶏(ヨダレドリ)セット」。前菜には、季節に応じて地域の畑で栽培された野菜や、山田さんが採取した山菜などが使われている。



夜は居酒屋形式で、豚一枚肉の揚げ物「排骨(パイコー)」(写真右下)、和牛すじ肉を使った「麻婆豆腐」(写真左)、季節の具材の「春巻き」などがオススメ。



戦国大名・亀井茲矩(これのり)公の居城跡があり、桜の名所としても知られる。「静かで風情のある場所です。ランチ営業後に、ふらふらと散歩して缶コーヒーを飲むのが至福の時間です」。

倉吉市

くらよしし

居心地のいい小さなカフェで 心とからだに優しい自然食を提供

山浦優子さん



「やさしい ちいさな おうち 優希-cafe yuuki」をオープンした山浦優子さん。自然に囲まれた立地で、大きな窓からは、山々や天神川の土手、美しい田園風景を眺められる。

シ
ンボルの打吹山をはじめ、豊かな自然が広がり、「田舎のよさ」と「まちの便利さ」が融合した「暮らしよし」のまち、倉吉市。そんな暮らしやすさが魅力のまちに、神戸市から移住した山浦優子さんが営むカフェ「優希-cafe yuuki」が2024年10月にオープンした。

長崎で育ち、神戸へ進学して栄養士として働いていた山浦さんは、カフェを開きたいという夢をかなえようと、2023年に移住。「倉吉市には祖父母が暮らし、夏休みには梨畑や小川で遊んだ楽しい思い出が...

出がありました」。お菓子づくりが好きで、働きながら名門のフランス料理学校「ル・コルドン・ブルー」に通い、その後フランス料理店のシェフパティシエに転向。忙しいなかで以前より興味があったマクロビオティックを学ぶ。実践し、効果を実感したことから、カフェでは伝統的な日本の食べ方に沿って動物性食品や小麦は使わず、米や穀物、豆類、野菜などを使用し、発酵をテーマにした料理を提供することにしました。

元の人たちのサポートも心強かった。「移住の相談をさせていただいたとき、鳥取県の移住アドバイザーであり、倉吉市内で自然食品の店「ねこ。」を営んでいる福本靖子さんを紹介してもらいました。カフェのオープンまで「ねこ。」で手伝いさせていただき、たくさんの方々とお会いすることができました。地元産の自然栽培米なども購入させてもらっています」

「近所の天神川の河原を散歩すると気分転換になって、癒やされます。また、旬の果物や野菜も手に入りやすい環境です」
今後は、発酵ワークショップやイベントなども開催していく予定だという。



アンティークの扉が印象的なカフェ。まるで物語の中のよう。



自家製発酵調味料を使った「Veganキッシュと発酵スープのランチ」(完全予約制)。グルテンフリーで、発酵玄米ごはんか米粉パン(左)が選べる。



白壁土蔵群の一角で、吹きガラスと音楽のお店「saon」を営んでいる中村好伸(なかむらよしのぶ)さん(写真左)と大家具子さん(写真中央) 夫妻には開業前からお世話になっている。

倉吉白壁土蔵群



打吹山を望みながら、まち歩きが楽しめる観光名所。「いろんなお店があり、赤い石州瓦と白壁の蔵が立ち並ぶ通り沿いに小さな川が流れていて、その風景に癒やされます」。

三朝町

みささちょう

窓から山が見え、家の前で川遊び 祖父母が暮らし続けた家を住み継ぐ

小椋亮典さん
里奈さん



右/2階の窓は四季が感じられるように、あえてカーテンをつけていない。窓からは若杉山がよく見え、夜にはきれいな星空が楽しめる。上/外観や間取りは変えずに改修した。



暮らしやすくなった現代風のリビングダイニング。白を基調としたことで、窓が少ない奥も明るい部屋になっている。



ずっとお世話になっている前の家の西田さん夫妻と。子どもたちを散歩に連れていってくれたりと、いつも見守ってくれている。

三朝温泉



高濃度のラドン含有量を誇る三朝温泉。「日帰り入浴にはよく入りに来ます。泊まったことも(笑)。レトロな雰囲気温泉街も好きです」と里奈さん。

小椋さん家族が暮らす築約100年の古民家は、三朝温泉から車で約20分、山と川に囲まれた小さな集落にある。亮典さんの祖父母が暮らし続けた家で、40年近く空き家だった。

亮典さんは三朝町の隣の倉吉市出身。滋賀県出身の里奈さんとは、京都の動物病院で出会った。移住前は京都のマンション暮らしだったが、子育てするのなら自然が豊かなところがいいと、鳥取への移住を決意した。

動物看護師として働いていた小椋さん家族は、賃貸物件へ再び引っ越した。改修では、古民家の趣を残しつつ、水回りやリビングは現代的な設えに。完成した家は、

た亮典さんは、「ふるさと鳥取県定住機構」の大阪窓口へ相談。倉吉市のガス関連会社への転職が決まった。しかし、家があるかなか見つからず困っていると、亮典さんの親戚から三朝町のこの家をすすめられた。

2015年に鳥取県へ移住し、ひとまず亮典さんの実家で暮らしながら空き家を片付け、2トントラック4台分もの家財やゴミを処分。だが、暮らしてみると、床が抜けるなどの支障が出て、結局リフォームすることに。小椋さん家族は、賃貸物件へ再び引っ越した。改修では、古民家の趣を残しつつ、水回りやリビングは現代的な設えに。完成した家は、

家の前を流れる川は、ちょうど流れが緩やかで、子どもたちの川遊びに最適。



「小椋家の皆さんが大切にしてくださったこの家を受け継ぎ、次世代へとつなぐその懸け橋になれればいい、建て替えではなく、リフォームを選択しました。これからの家で暮らしたい」と里奈さんは話す。

